

■12月12日

JNTO、11月までの累計訪日外客数950万人、初の1,000万人達成目前

政府観光局は11日、今年1—11月の訪日外国人が累計で前年同期比23.9%増の949万9300人に達したと発表した。11月は前年同月比29.5%増の83万9800人。円安で訪日旅行が割安となる中、LCCを含め海外と日本を結ぶ航空路線網が拡充され、訪日客の呼び込みにつながった。7月からタイ、マレーシアの短期訪日ビザを免除するなど、政府が東南アジア向けにビザを緩和したことも寄与した。観光局は、政府目標の年間1000万人の達成は可能だとしている。

1—11月の累計の国・地域別内訳では、トップの韓国が23.4%増の227万3300人、2位の台湾が52.2%増の206万1400人。3位の中国は沖縄県・尖閣諸島をめぐる日中関係緊張を背景に11.3%減の121万7900人に落ち込んだ。

(時事ドットコム)12/11

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013121100555 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013121100555)

(JNTOプレスリリース)12/11

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf/131211_monthly.pdf (->http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf/131211_monthly.pdf)

*出典:JNTO

2013年11月 訪日外客数 (JNTO推計値)

Visitor Arrivals for Nov. 2013 (Preliminary figures by JNTO)

国・地域	Country/Area	総数 Total			総数 Total		
		2012年 11月	2013年 11月	伸率(%)	2012年 1月～11月	2013年 1月～11月	伸率(%)
総数	Grand Total	648,548	839,800	29.5	7,668,426	9,499,300	23.9
韓国	South Korea	183,557	170,900	-6.9	1,842,825	2,273,300	23.4
中国	China	51,993	101,900	96.0	1,372,764	1,217,900	-11.3
台湾	Taiwan	123,299	177,900	44.3	1,354,738	2,061,400	52.2
香港	Hong Kong	36,215	62,700	73.1	437,024	673,700	54.2
タイ	Thailand	24,239	51,200	111.2	235,069	397,600	69.1
シンガポール	Singapore	14,792	20,000	35.2	114,751	151,100	31.7
マレーシア	Malaysia	15,170	26,200	72.7	112,962	148,100	31.1
インドネシア	Indonesia	7,678	11,000	43.3	88,107	119,800	36.0
フィリピン	Philippines	6,775	8,600	26.9	77,640	97,200	25.2
ベトナム	Vietnam	4,717	7,200	52.6	51,655	79,300	53.5
インド	India	6,112	6,500	6.3	64,205	70,200	9.3
豪州	Australia	13,968	16,100	15.3	180,984	214,300	18.4
米国	U.S.A.	58,238	65,200	12.0	658,783	731,000	11.0
カナダ	Canada	11,454	12,900	12.6	123,580	138,200	11.8
英国	United Kingdom	13,953	15,100	8.2	160,648	177,200	10.3
フランス	France	10,777	11,500	6.7	120,155	144,500	20.3
ドイツ	Germany	10,995	11,900	8.2	101,617	114,000	12.2
ロシア	Russia	5,306	5,700	7.4	45,971	56,400	22.7
その他	Others	49,310	57,300	16.2	524,948	634,100	20.8

政府、沖縄税制改正見直し、航空燃料税の軽減措置拡充

政府、与党は11日、2014年度の沖縄振興関係の税制改正で、名護市の金融特区内における課税の特例や沖縄路線航空機にかかる航空機燃料税の軽減措置の拡充延長など計6項目について、ほぼ県の要望通りに決定する方針を固めた。

航空関係では、航空燃料税の軽減措置も拡充。現行の本土—那覇、宮古島、石垣島、久米島の沖縄路線(1リットル当たり9円)の延長とともに、県内離島を結ぶ全路線も追加した。

(沖縄タイムス)12/12

<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=58705> (-> <http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=58705>)

全日空、那覇空港ハブとした国際貨物事業推進、那覇—青島線1月1日就航

全日空は、那覇空港をハブとする国際航空貨物事業で、沖縄—青島線を2014年1月1日から就航する。8月の就航が予定されていたが、中国政府から認可が下りず、就航予定日は未定となっていた。今回、中国政府からの認可承認を受け、就航日が正式に決定した。使用機材は貨物専用機ボーイング767(積載重量50トン)、週6便で運航する予定。琉球新報が報じた。

沖縄—青島線就航により、ANAの沖縄からの貨物便就航地点は、国内が成田、羽田、関西、中部の4カ所、海外はソウル、上海、台北、香港、バンコク、青島、春にはシンガポール就航を予定しており7都市計11地点となる。

また、日刊航空によると、青島線と同じく中国当局の認可待ちとなっていた成田—広州線もこのほど就航できる環境が整ったようだ。ANAの貨物事業モデルは、B767F型貨物専用機を昼間は成田・関西空港からアジア・中国を結ぶ路線で使用し、夜間は24時間運用が可能な那覇空港をハブにして展開、エクスプレス貨物などを扱う。今年度内に受領するB767-300F型機10号機を活用し路線網拡大を確実に進めていく。

(琉球新報)12/10

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyvid-216480-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyvid-216480-storytopic-4.html>)

(日刊航空)12/11

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1211-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1211-03.pdf>)

航空4社、新千歳—羽田線、11月搭乗実績、前年同月比8.4%増、平均搭乗率74.8%

航空4社が運航する新千歳—羽田線の11月の搭乗実績(スカイマークは確定値、他社は速報値)によると、総旅客数は前年同月比8.4%増の75万3125人となり、4カ月連続で前年を上回った。観光客が減る時期だが、札幌での大型イベントなどがけん引したとみられる。平均搭乗率は同3.7ポイント高い74.8%だった。北海道新聞が報じた。

航空会社別の旅客数は、日航が同10.8%増の26万724人、全日空が同11.0%増の33万2943人、AIRDOは同12.7%増の9万5104人と好調。前年同月と比べて2往復少なくなったスカイマークは同14.3%減の6万4354人となった。

搭乗率は全社で前年同月を上回り、日航は同3.1ポイント高い78.5%、全日空は同2.2ポイント高い69.4%、AIRDOは同11.0ポイント高い79.3%、スカイマークは同7.4ポイント高い86.6%だった。

(北海道新聞)12/11

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/509506.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/509506.html>)

丘珠空港、FDA小型ジェットチャーター、プロペラ機騒音上回る、国の基準は超えず

札幌市は10日、丘珠空港でフジドリームエアラインズ(FDA)が11月16日に運航した小型ジェット機のチャーター便の騒音調査結果を発表した。同じ日に測定した北海道エアシステム(HAC)のプロペラ機を最大15デシベル、客を乗せずに実施した7月のテスト飛行を最大13デシベル上回ったが、国の環境基準は下回った。北海道新聞が報じた。

小型ジェット機の着陸時の騒音は65~87デシベルで、同方向から着陸したプロペラ機7便は76~85デシベルだった。離陸時は小型ジェット機が68~89デシベル、プロペラ機は53~83デシベルだった。また、旅客を乗せなかったテスト飛行時と比較すると、比較可能な3地点のうち2地点で前回を上回った。

(北海道新聞)12/11

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/509451.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/509451.html>)

(札幌市HP)12/10

http://www.city.sapporo.jp/shimin/okadama/info/mondai/documents/jisshou_chosakekka.pdf (-> http://www.city.sapporo.jp/shimin/okadama/info/mondai/documents/jisshou_chosakekka.pdf)

http://www.city.sapporo.jp/shimin/okadama/info/mondai/documents/jisshou_sokuteichiten.pdf (->
http://www.city.sapporo.jp/shimin/okadama/info/mondai/documents/jisshou_sokuteichiten.pdf)

FDA、鈴木社長、松本-福岡線、夏季の1日2往復化「来夏は難しい」

フジドリームエアラインズ)の鈴木与平社長は10日、静岡市内で信濃毎日新聞の取材に応じ、県営松本空港(松本市)発着の福岡線の夏場限定での1日2往復化について、機材繰りの問題などから「来夏に実現できるかは自信がない」との見方を示した。信濃毎日新聞が報じた。

鈴木社長は福岡線の2往復化について、年平均利用率70%をめどに実現の可能性を示唆。その後、「2往復になった後も利用率が70%程度を想定できないと難しい」とし、夏場に限定して2往復化を探る姿勢を示していた。因みに福岡線の2012年度の平均利用率は69.2%だった。

(信濃毎日新聞)12/11

<http://www.shinmai.co.jp/news/20131211/KT131210ATI090023000.php> (->
<http://www.shinmai.co.jp/news/20131211/KT131210ATI090023000.php>)

FDA、静岡空港発着—新規路線就航を断念、空港運用時間がネック

(産経ニュースによると)

フジドリームエアラインズが、来年の3月末からの夏ダイヤで検討していた静岡空港発の新規路線の就航を断念する方向で調整に入ったことがわかった。同社首脳が産経新聞の取材に明らかにした。3月から導入する8号機については、小牧空港発の新規路線や増便、静岡空港発の増便などを検討する。来年1月中旬にも正式に発表する。

FDAでは当初、静岡空港の利用者増加につなげようと、山形空港や出雲空港を結ぶ新規路線や、福岡空港発着路線の3便から4便への増便を検討していた。「福岡に出張しても午後10時に静岡空港に戻ってこられる便を増やせばメリットは大きいと考えた」(同社首脳)

しかし、ネックになったのが、午後8時半までとなっている静岡空港の運用時間の短さだ。

静岡空港の運用時間は、開港当初は午前8時～午後7時半までの11時間半だったが、平成23年4月から午前7時半～午後8時半までの13時間に延長。しかし、多くの地方空港の運用時間は15時間程度で、中には24時間運用の空港もある。

FDAや海外の航空会社からも運用時間延長を求める声は強い。しかし、空港周辺住民と運用時間の上限を定めた「騒音協定」を結んでいるため、慎重な調整が必要になり、同社首脳は「運用時間延長は再来年以降になるのではないかとみている」。

また、静岡空港の利用者数が昨年度45万人足らずにとどまるなど、伸び悩んでいることも新規路線開拓の足かせとなった。同社首脳は「新規路線は採算が取れるまでは数年はかかる。リスクを取ることは難しい」と話した。

そのため、同社では小牧空港から山形、出雲などへの新規路線や小牧空港からの既存路線の増便を中心に検討。ただ、静岡空港発着路線の増便についても、最後まで検討を続ける方針だ。

一方、再来年以降に導入する9号機以降の新型機については、運用時間延長後、静岡空港からの運行を検討する。9号機以降については、現在7年ほど経過して老朽化し始めた1～3号機を売却した上で購入する考えだ

(産経ニュース)12/12

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131212/szk13121202010001-n1.htm> (->
<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131212/szk13121202010001-n1.htm>)

スカイマーク、11月旅客輸送実績、搭乗者数、前年同月比3.6%減、L/F66.3%

スカイマークは10日、2013年11月の旅客輸送実績を発表した。これによると、提供座席が前年同月比1.5%増加したのに対し、合計搭乗者数は同3.6%減少の52万4,387人だった。平均利用率は66.3%と前年同月と比べて、2.8ポイント減少した。

路線別では、LCCと競合する成田路線の搭乗率は、成田—那覇線41.7%、成田—札幌線53.0%、成田—福岡線81.72%だった。また、成田—旭川線(21.8%)や石垣線(21.7%)の搭乗率が3割を切った。

(スカイマークHP) 12/10

http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.pdf (->
http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.pdf)

* 出典:スカイマーク

期 月	第18期(2013.4~2014.3)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
提供座席数	758,445	815,439	826,944	862,875	882,345	825,174	843,228	794,376
搭乗者数	490,856	515,526	528,904	608,097	704,032	623,250	551,424	524,387
L/F	65.1%	62.9%	65.2%	71.6%	80.2%	77.0%	66.1%	66.3%
前年比	94.9%	97.2%	106.7%	102.4%	106.2%	100.2%	95.0%	96.4%

静岡空港、11月利用状況、ソウル線利用者、前年同月比33.3%減

県が9日に発表した静岡空港の11月の利用状況によると、国内、国際線を合わせた全体の搭乗者数は3万5549人で前年同月とほぼ同じだった。国内線では、全日空札幌線、FDA福岡線の利用者が好調だった。

国際線はソウル線が低調で、搭乗者数は5723人と前年同月33.3%減となった。同路線はアジアナ航空が週5便、大韓航空が週3便に減便しており提供座席数の減少が響いた。また、原発汚染水問題や日韓関係悪化を背景に、ウオン高円安によって増えるはずの韓国人の利用が伸びず、為替の影響などで日本人の利用も低調だった。

一方、週4便の台北線は4014人(33.7%増)。増便の利便性向上と富士山世界遺産効果で好循環が生まれ、好調を維持している。

県の空港利用政策課は、12月で終える予定の国際線乗り継ぎ利用キャッシュバックを年明けも継続し、需要の取り込みに努める。

(静岡新聞) 12/10

<http://www.at-s.com/news/detail/872135209.html> (-> <http://www.at-s.com/news/detail/872135209.html>)

ジェットスター(LCC)、成田—メルボルン線就航、来年4月29日、週4便

ジェットスターは10日、2014年4月29日から、成田—メルボルン線の直航便を開設すると発表した。使用機材はエアバスA330-300型機で、週4便運航する。この就航と合わせて、現在運航中の関空—ゴールドコースト線を2014年5月8日より運休する。

同社は成田線の増強で、ジェットスター・ジャパン(LCC)による国内線乗継の利便性を期待できるとしている。

(ジェットスター) 12/10

Share on print (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>) Share on facebook (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>) Share on email (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>) Share on twitter (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>) Share on favorites (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>) More Sharing Servicesmore (-> <http://www.jetstar.com/mediacentre/latest-announcements/detail?Id=7f26a233-fa46-4e4f-9d90-38e0764edd6b&language=en>)

ジェットスター(LCC)、成田—マニラ経由の豪ダーウィン線運休

ジェットスターはこのほど、成田—マニラ経由のダーウィン線の運航を来年3月末で休止すると発表した。同便は現在、週4便を運航しており、就航から2年での運休となる。同社の日本とフィリピン路線は、関空線が週5便で運航している。

運休は、ダーウィン発着便の運航スケジュール再編の一環。ジェットスターは、国際線市場における海外航空会社との

競争などに伴う措置と説明している。

今回のスケジュール再編では、ダーウィンーケアンズ便を増便する一方、ブリスベーン、インドネシアのデンパサール、シンガポールの各便を減便する。週当たりのダーウィン発着便は現行の54便から49便となる。

(NNA ASIA)12/12

<http://news.nna.jp/free/news/20131212php005A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131212php005A.html>)

エールフランス、羽田ーパリ線就航、2014年夏から1日2便、成田線は減便

エールフランス航空は2014年3月30日から羽田ーパリ線に羽田空港の昼間時間帯も使って就航する。1日2便、自社機材で運航を行う。一方成田線は、現在1日2往復の自社便を運航しているが、14年3月30日からの夏ダイヤでは1日1往復に減便。羽田と成田の便を合わせて、パリー東京間を1日3往復とする。

羽田線は、使用機材は朝便がボーイングB777-200型機(座席数:ビジネス35席、プレミアムエコノミー24席、エコノミー250席)で、夜便がB777-300型機(座席数:ファースト8席、ビジネス67席、プレミアムエコノミー24席、エコノミー200席)。

(トラベルビジョン)12/11 (->)

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59891> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59891>)

全日空、パイロット訓練にMPL訓練を導入

全日空は10日、パイロット養成にあたって、初めからエアラインの副操縦士業務に特化した“准定期運送用操縦士”(MPL: Multi-crew Pilot License)を取得する訓練を2014年夏から開始すると発表した。ルフトハンザの子会社のLufthansa Flight Training GmbH(以下LFT社)に委託した。

MPLはエアラインの2人乗り航空機の操縦士に特化した新しいライセンス。

ANAでは2009年からMPL訓練の導入を検討してきたが、実運航を想定した高品質な訓練に加え、基礎訓練から実用機訓練まで一貫して効果的な訓練が可能になると判断し、このたび導入を決定した。これにより、従来よりも効果的にかつ短期間で副操縦士養成が可能になる。

なお、日航は10月に同制度を2014年4月より開始すると発表している。

(日刊航空)12/12

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1212-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1212-03.pdf>)

(ANAプレスリリース)12/10

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/pdf/13-131-1.pdf (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/pdf/13-131-1.pdf)

(JALプレスリリース)10/21

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002686.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002686.html>)